

大島海峡



講演会開催!!

なぞ

謎

「ミステリーサークル」の



シッポウフグ属の新種と産卵床

開催日時・場所

平成26年2月2日（日）

午後2時から

瀬戸内町中央公民館ホール

無料



シッポウフグ属の新種

今から20年ほど前。

奄美大島の海底に、自転車の車輪のような模様のミステリーサークルが発見されました。しかし、ミステリーサークルがどのようにしてできるのか、そして、誰が作るのかは謎のままでした。

時は過ぎ、2011年。水中写真家の大方洋二さんによって、フグがミステリーサークルを作ることが明らかにされました。

そして、2012年7月に、大方さんやNHK「ダーウィンが来た」のスタッフ、千葉県立中央博物館の川瀬さん、そして今回の講師である国立科学博物館の松浦啓一さんが、大島海峡の海底でミステリーサークルを作るフグを観察しました。

観察の結果判明した、ミステリーサークルの構造は？作り方は？そして、どのような謎が残っているのか？この新種である奄美大島のフグと、彼らが作る海底のミステリーサークルについて、その不思議に迫ります。

写真撮影：大方 洋二氏



講師 ^{まつうら}松浦 ^{けいいち}啓一 氏 国立科学博物館 館長付特任研究員

1948年 東京生まれ

東京水産大学卒業後、北海道大学大学院水産研究科博士課程を経て、水産学博士となる。専門は魚類分類学。

日本魚類学会会長、日本分類学会連合代表、GBIF(地球規模生物多様性情報機構)副議長などを歴任し、現在は国立科学博物館・館長付特任研究員を務める。著書は「標本の世界」(東海大学出版会／2010年)、「動物分類学」(東海大学出版会／2009年)、「魚の形を考える」(東海大学出版会／2005年)など多数